

9:00~10:00

教育研修講演6：橈骨遠位端骨折治療の原点と挑戦

座長：今谷 潤也（岡山済生会総合病院 整形外科）

EL6-1 橈骨遠位端骨折治療の原点と挑戦 — ロッキングプレート導入前の橈骨遠位端骨折に対する手術的治療の変遷 —

Origins and Challenges of Distal Radius Fracture Treatment- Changes in Surgical Treatment of Distal Radius Fractures Before the Introduction of the Locking Plate -

池上 博泰

東邦大学 医学部整形外科学講座

橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート法は、2000年にDr Orbayが発表して以来、現在、最も一般的な手術的治療となっている。本講演では、佐藤会長からご依頼のあったロッキングプレート導入前の橈骨遠位端骨折に対する手術的治療の変遷について述べる。

具体的には、経皮的鋼線固定法、bridging/non-bridging創外固定術、掌側/背側ノンロッキングプレートを中心にその適応や治療成績、合併症等について講演予定である。

EL6-2 橈骨遠位端骨折治療の原点と挑戦2. 掌側ロッキングプレート登場後の進歩と課題

Origin and challenge in the treatment of distal radius fractures
2. Progress and problem after the development of volar locking plates

西脇 正夫

川崎市立川崎病院 整形外科 手肘外科センター

2000年以降、橈骨遠位端骨折手術は掌側ロッキングプレート(VLP)固定が中心となり、治療成績は飛躍的に向上した。現在は様々なVLPが開発され、骨折型により使い分けられている。手術の割合も著しく増加したが、屈筋腱断裂などの合併症も増加した。適応は限定されるが、髄内釘も開発された。手術療法が発展した現在も、特に高齢者では手術療法が保存療法より優れているとのエビデンスはなく、手術適応は慎重に判断する必要がある。